

# QU・hyper QUの活用について

## —その意義および分析と活用について—

2016. 8. 19

●●●中学校 校内研修資料

つくば市立吾妻中学校 菊池 直人

# ウォーミングアップ

- アイスブレイク  
学年で2つのグループに分かれて簡単なゲームをします。
- T E Gに挑戦してみましよう！  
インターネットを使用してやってみます。

[エゴグラムで性格診断！詳しいパターン分析でタイプを判定！](http://ta.direct-comm.com/charactor/)

<http://ta.direct-comm.com/charactor/>

HOME 交流分析講座 HOME はじめての交流分析コラム エゴグラム無料診断 講師プロフィール

HOME > エゴグラム無料診断

エゴグラムで性格診断, 詳しいパターン分析ができます

～エゴグラム性格診断～

エゴグラム性格診断はカナダ出身の精神科医、エリック・バーンの交流分析の理論をベースに考案された性格分析手法です。

エゴグラムでは、私たちの心を5つの状態に分類し、そのエネルギー配分をグラフ化することで、その人の性格のクセを捉えます。

エリック・バーン (Eric Berne 1910-1970)

500円で体験！人間関係が良くなる

交流分析講座

大学院卒の交流分析の専門講師、臨床心理士の松本が開催している講座です。直接しっかり学びたい方は是非お越ししています。講座後のお茶会なども楽しんでいます (^\_^)

講師へのご依頼はこちらからどうぞ

研修・講演依頼

自分の性格を知ることはコミュニケーション能力を高める上での第1歩です。

# 生徒対応への自己および他者からの評価意識

## 主なエゴグラム・パターンと自己および他者からの評価意識の関係

		平均値	標準偏差	F 値	多重比較
自己および他者からの評価意識	自己評価	3.05	1.10	11.08***	AC優位型 < A優位型, NP優位型, AC低位型
	同僚からの評価	2.92	1.05	11.42***	AC優位型 < A優位型, NP優位型, AC低位型
	管理職からの評価	2.88	.98	8.27***	AC優位型 < A優位型, NP優位型, AC低位型
	生徒からの評価	2.95	.99	8.10***	AC優位型 < NP優位型, AC低位型
	保護者からの評価	2.86	.96	8.31***	AC優位型 < A優位型, NP優位型, AC低位型

\*\*\*p<.001

生徒対応への自己および他者からの評価意識下位項目平均値

**AC優位型 < A優位型 < NP優位型 < AC低位型**

## 効果的な生徒対応への実践意識

主なエゴグラム・パターンを要因とする効果的な生徒対応への実践意識の一要因分散分析の結果

	平均値	標準偏差	F 値	多重比較	
効果的な生徒対応実践意識	受容的	3.95	.60	13.15***	AC優位型 < A優位型, NP優位型, AC低位型
	積極的	3.86	.64	7.45***	AC優位型 < A優位型, NP優位型, AC低位型
	集団や第三者	3.85	.66	8.95***	AC優位型 < NP優位型, AC低位型
	教師	3.71	.73	5.29**	AC優位型 < A優位型, NP優位型, AC低位型

\*\*p<.01, \*\*\*p<.001

効果的な生徒対応への実践意識下位項目平均値

AC優位型 < A優位型 < NP優位型 < AC低位型

## 効果的な生徒対応へのストレス意識

主なエゴグラム・パターンを要因とする効果的な生徒対応へのストレス意識の一要因分散分析の結果

	平均値	標準偏差	F 値	多重比較	
効果的な生徒対応へのストレス意識	受容的 (ストレス)	2.39	.83	7.57***	AC優位型 > AC低位型
	積極的 (ストレス)	2.35	.83	5.41**	AC優位型 > AC低位型
	集団や第三者 (ストレス)	2.35	.83	6.74***	AC優位型 > NP優位型, AC低位型
	教師 (ストレス)	2.33	.84	4.89**	AC優位型 > AC低位型

\*\*p<.01, \*\*\*p<.001

効果的な生徒対応へのストレス意識下位項目平均値

AC優位型 > A優位型 > NP優位型 > AC低位型

# なぜ今QUなのか 社会におけるニーズとアカウンタビリティ

- 子どもの問題の多様化・潜在化  
(家庭, 教師, 生徒からの観察からの状況判断の限界)
- 早期発見・早期予防の必要性  
(いじめや不登校などについての社会的関心, 学校の社会的責任)
- 学校のアカウンタビリティ  
(学校内外でのトラブルについて説明する責任がある)

# hyper-QUを実施するねらい

- 生徒理解のため  
学級における生徒「個」の理解と「集団」の理解の促進
- チーム支援体制づくりのため  
校内における支援体制と行動連携の促進のため
- 「教師」の関わりを再考するため  
これまでの関わり，今後の生徒への関わりの検討

# 学力向上を妨げる影響の大きいもの

## ①家庭生活の問題

低年齢，発達段階が低いほど影響が大きい

## ②学級集団の問題（ルールとリレーション）

授業場面が学習する環境になっていない

荒れている

強い緊張感（生徒-生徒，生徒-教師）がある

## ③個人の学習活動の問題

学習意欲の低下，学習方法がわからない，学習習慣が定着していない，  
一斉授業についていけない

# 学級集団の学力向上の必要・十分条件

## 【十分条件】

- 1人1人の子どもが学習や学級活動に積極的に取り組もうとする意欲と行動する習慣  
同時に子ども同士で学び合う姿勢と行動する習慣
- 集団内に、子どもたちの中から自主的に活動しようとする意欲，行動するシステム

十分条件

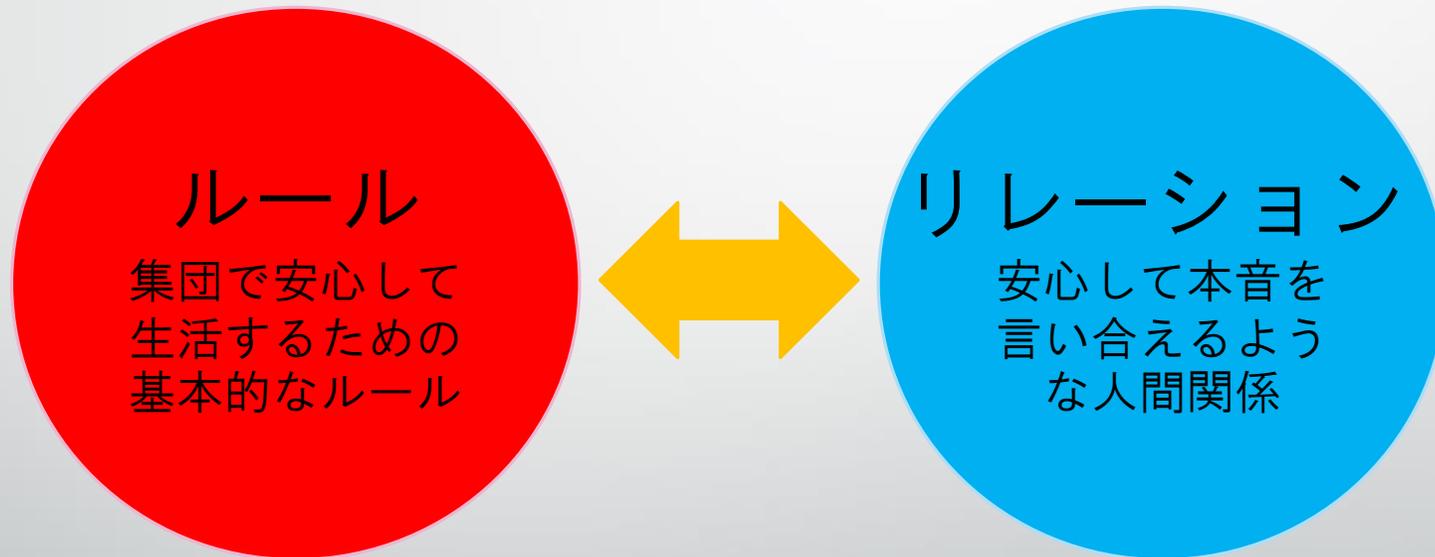
## 【必要条件】

- 集団内の規律，共有された行動様式（**ルールの確立**）
- 集団内の子ども同士の良い人間関係，役割交流だけでなく感情交流も含まれた内面的な関わりを含む親和的な人間関係（**リレーションの確立**）

必要条件

アセスメントを実施，必要・十分条件を満たすことが重要

# 学級集団を見る視点 ルールとリレーション

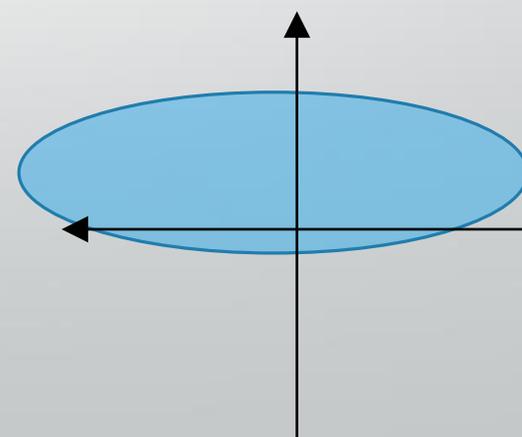
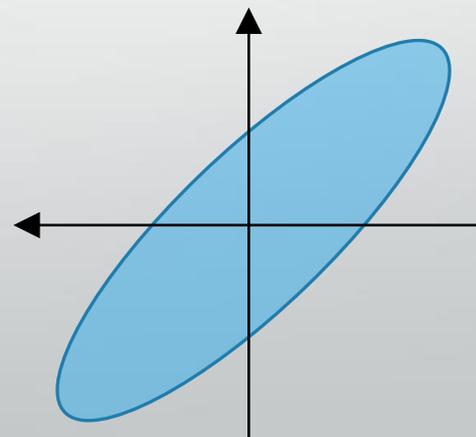
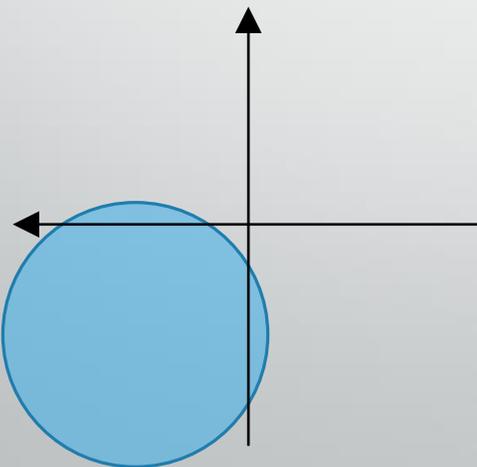
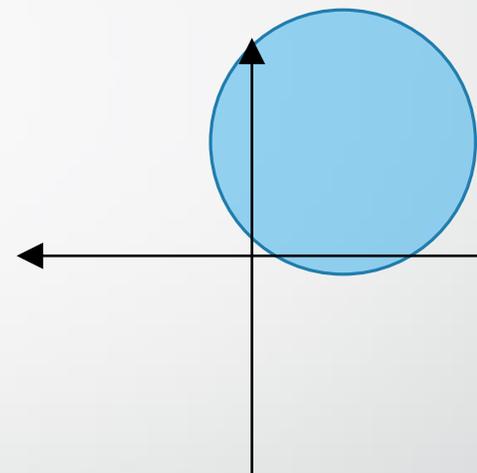
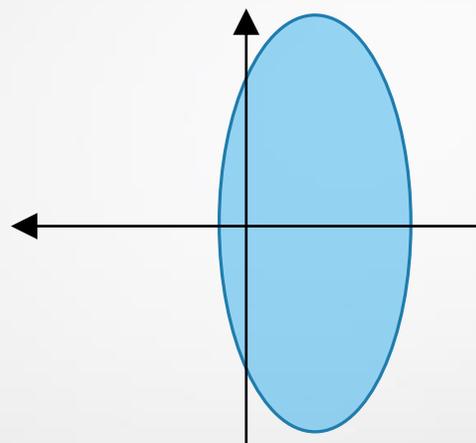
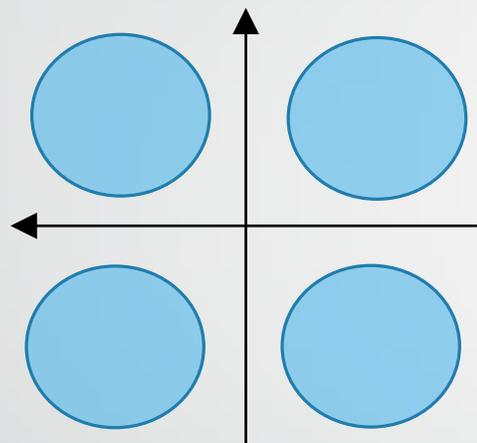


ルールとリレーションのバランスが取れていると集団は安定

# グループワーク

- グループで話し合いながらQ Uの型を決定してみます。
- グループは学年で2グループに分かれて行ってください。

# 学級の型の決定

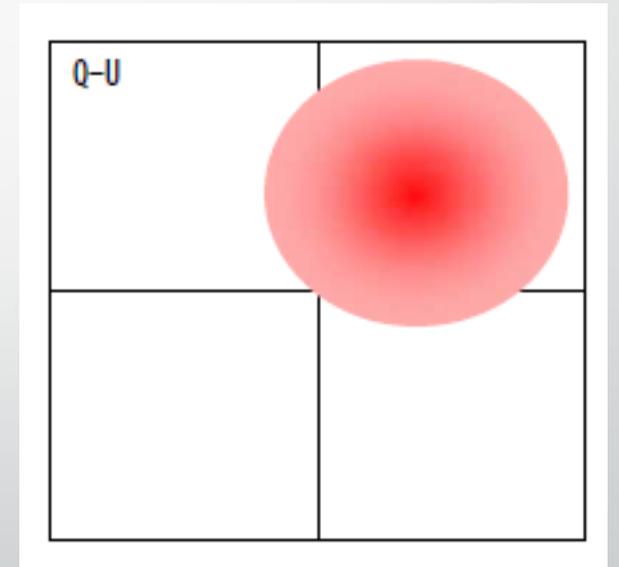


## 〔タイプA〕

右上に集まった分布→学級生活満足タイプ

《ルールとリレーションが同時に確立している「親和的なまとまりのある学級集団」》

- **学級内にルールが内在化**しています。
- 児童生徒が**主体的に生き生きと活動**している状態です。
- 親和的な人間関係があるので、**児童生徒のかかわり合い、発言も積極的で、活気があり、笑いが多い学級**です。

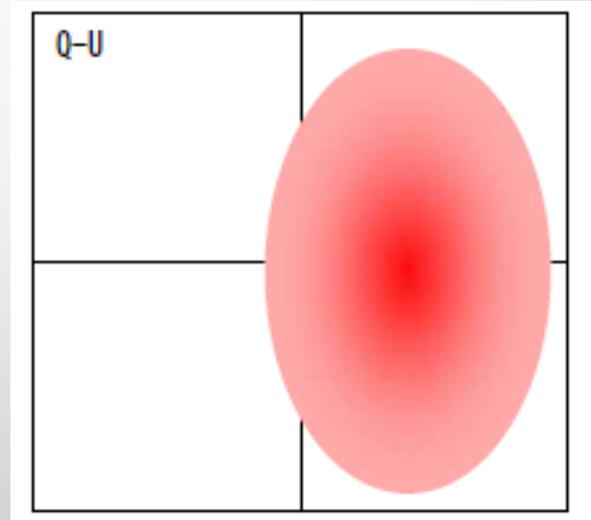


## 〔タイプB〕

縦に伸びた分布→満足・非承認並存タイプ

《リレーションの確立がやや低い「かたさの見られる学級集団」》

- **ルールは定着**している。**一見落ち着いた学級に見える**が、児童生徒たちの意欲に大きな差が見られ、**人間関係も希薄**といえます。
- 児童生徒は**教師の評価を気にする傾向**があり、児童生徒同士の関係にも距離があります。
- 活気のない状態で、**学級活動も低調気味**と考えられます。

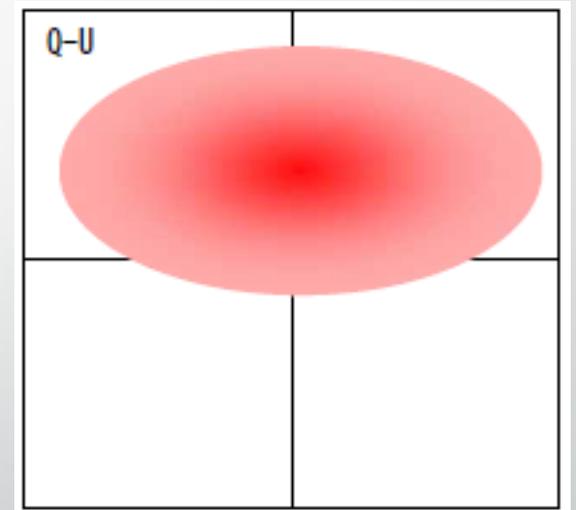


## 〔タイプC〕

横に伸びた分布→満足・侵害行為認知並存タイプ

《ルールの確立がやや低い「ゆるみの見られる学級集団」》

- 学級内のルールの定着が低い状態です。
- 一見、子どもたちが元気で自由にのびのびとしている雰囲気に見えるが、授業では私語が見られたり、児童生徒たちの中で小さなトラブルが頻発したりしている状態です。
- 特定の声の大きな児童生徒たちに、学級全体が牛耳られる傾向があります。

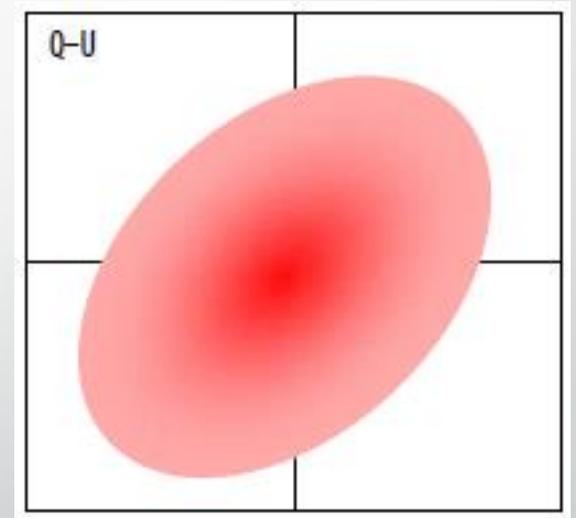


## 〔タイプD〕

斜めに伸びた分布→満足・不満足並存タイプ

《ルールとリレーションの確立が共に低い「荒れ始めの学級集団」》

- 〔タイプB〕、〔タイプC〕の状態の時に具体的な対応がなされないと、左の形態が出現します。
- それまでの学級のプラス面、すなわち一見静かで落ち着いた学級（タイプB）、一見元気で児童生徒たちが自由にのびのびとしている雰囲気（タイプC）といった側面が徐々に喪失し、そのマイナス面が表れてきます。
- このような状態になると、**教師のリーダーシップは徐々に効を奏さなくなり、児童生徒たちの間では、互いに傷つけ合う行動が目立ち始めます。**

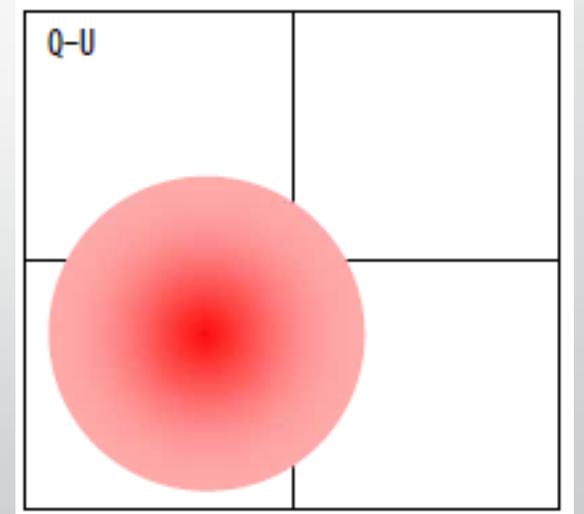


## 〔タイプE〕

左下に集まった分布→学級生活不満足タイプ

《ルールとリレーションが喪失した「崩壊状態の学級集団」》

- 学級生活不満足群に **70%以上** の児童生徒たちがプロットされた状態です。
- 学級がすでに教育的環境になっておらず、**授業が成立しない**ことを示しています。
- 児童生徒は集まることによって、互いに傷つけ合い、**学級に所属していることに対して、肯定的になれません。**

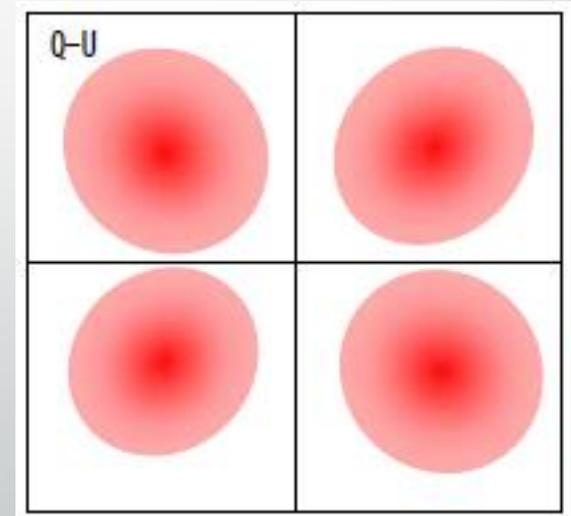


〔タイプF〕

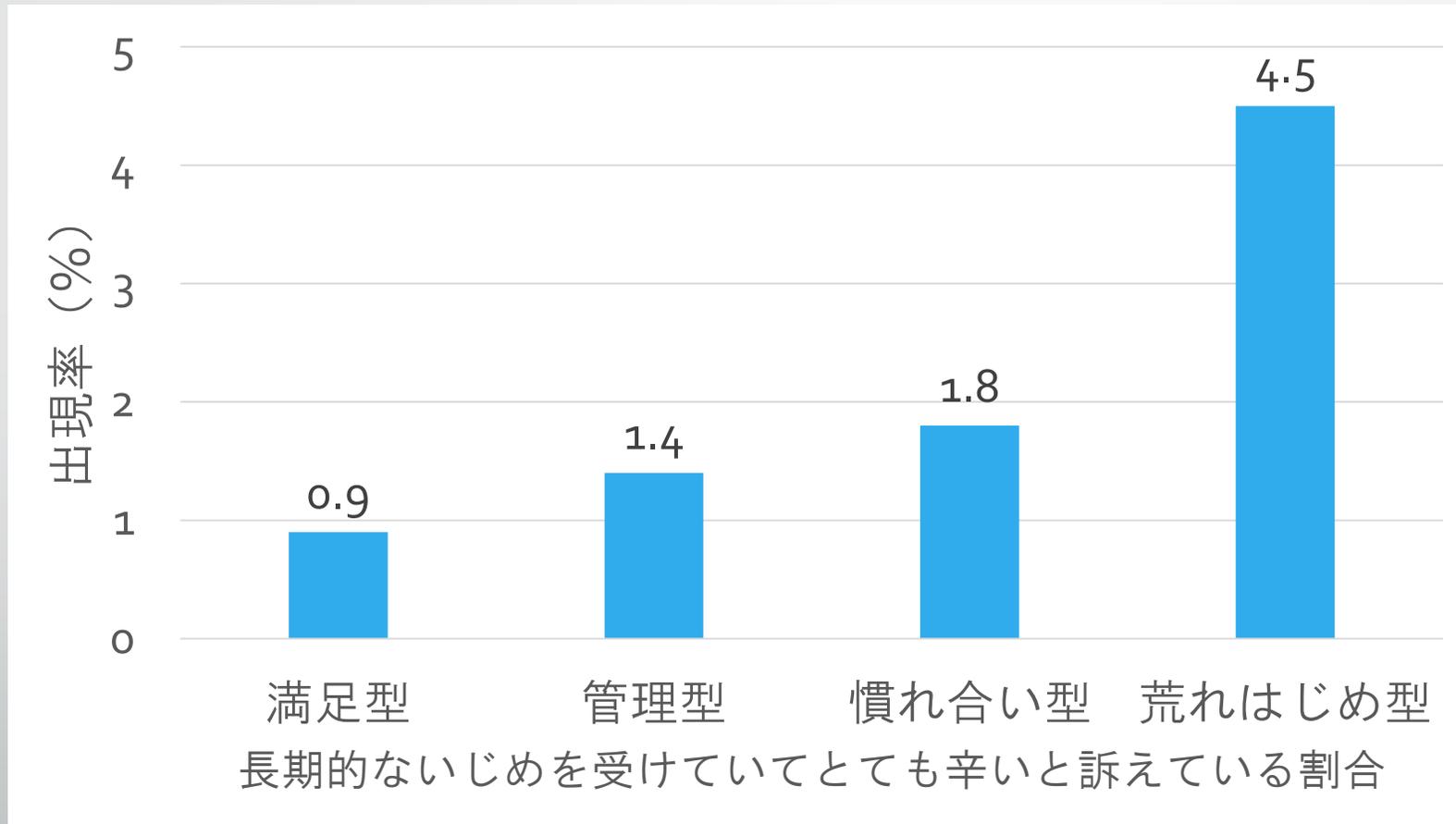
すべてに拡散した分布→拡散タイプ

《ルールとリレーションの確立が共に低い「ばらばらな学級集団」》

- すべての群に**分布が拡散**している状態です。
- 1度の調査では、学級としての方向性を見出すことが難しい分布といえます。
- **友達同士の関係づくりが難しい状況**にあると考えられ、また、**自分勝手に行動している児童生徒が多い**ことも考えられます。

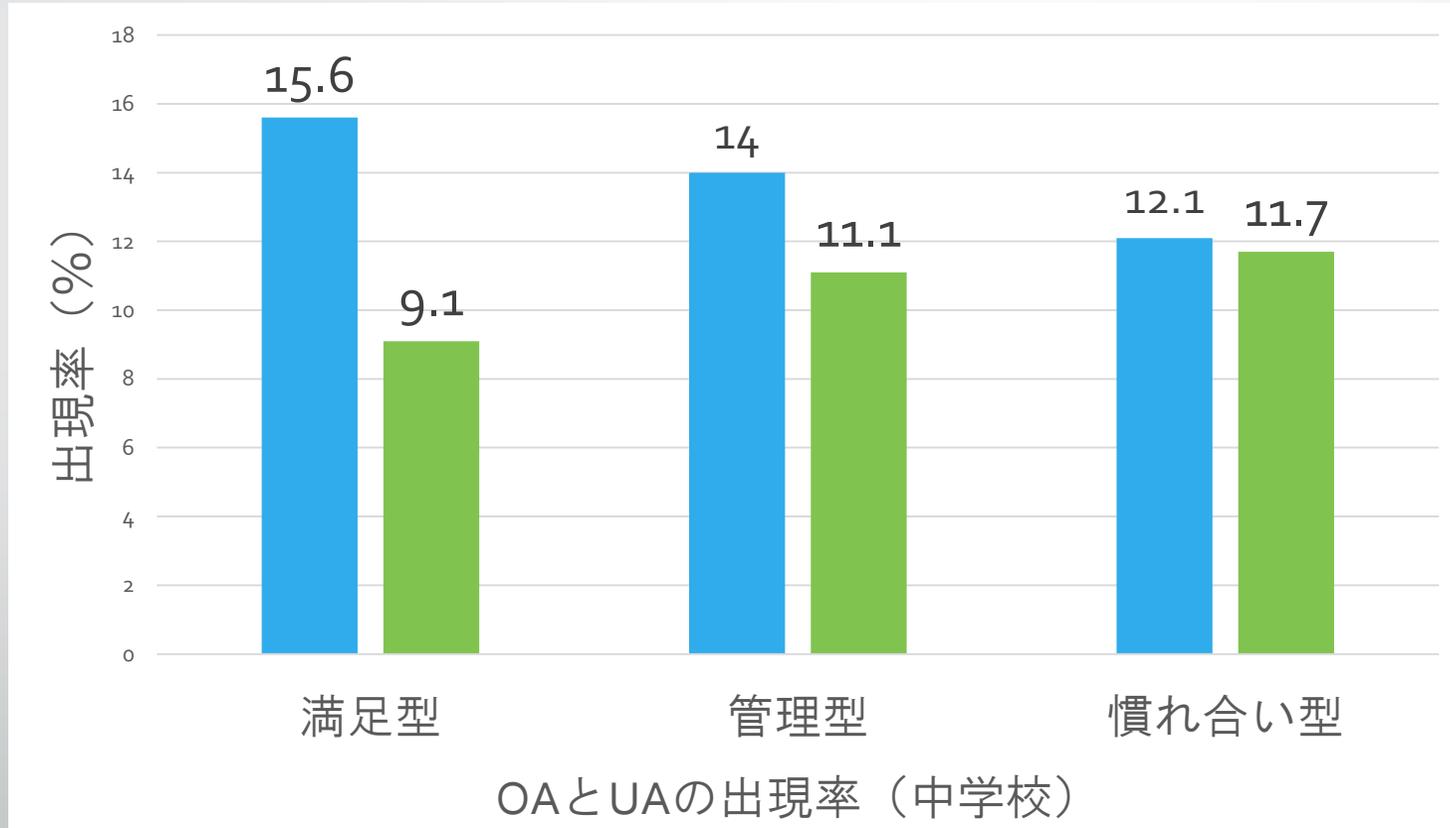


# QUタイプ別いじめ出現率



引用文献：河村茂雄「データが語る①学校の課題」図書文化社

# QUの結果と学力の関係



■ 系列 1 : 自分の能力以上に学力を高めることができた生徒

■ 系列 2 : 自分の能力以上に学力を高めることができなかった生徒

# ソーシャルスキル尺度

- 配慮

人の話は最後まで聞く

約束は守る

- かかわり

人と関わるきっかけづくりや関係の維持

感情交流ができるか

# 吾妻中学校学校生活アンケート結果

- 先日のアンケート結果

QU・Hyper QU